

2025年度公益財団法人JKA補助事業

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

令和8年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	3
3. セミナー開催	6
4. 教育 DX 推進フォーラム	20
5. 今年度作成したコンテンツの概要	23
6. まとめ	26
第2章	27
コミュニケーション力育成のための事業	27
1. 事業の目的	28
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	29
3. 「情報活用能力ベーシックを活用した探究学習のサイクルを表した児童生徒向け教室掲示用ポスター制作」	32
4. 「情報活用能力ベーシック」を活用した実践授業動画コンテンツの制作	35
5. セミナー開催	40
6. まとめ	53

第1章

情報モラル指導充実のための事業

1. 事業の目的

文部科学省の政策「GIGA スクール構想」により、2020 年度から児童生徒に対し 1 人 1 台端末が配布され、授業を含め日常的に使われ始めてから、5 年弱が経過している。その間にも、生成 AI などの新しい技術の進展もあり授業での活用も始まってきている。社会生活においてもインターネットは生活の一部となり、またスマートフォン、タブレット端末。ゲーム機などがインターネットの入口となり低年齢層への普及も目ざましい。また GIGA スクール端末やスマートフォンなどにはカメラが搭載されており、SNS などとの関連から正しくメディアリテラシーを身に着けることは、児童・生徒の安心安全のためには不可欠となっている。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場の ICT 安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて、これまで「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成 23 年度から公益財団法人 JKA の補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその 14 年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。インターネットを活用した技術の発展は目覚ましく、その分児童・生徒を取り巻く新しい問題も日々発生している。そのため、資料の最新化、講義内容の見直しなどを随時行っていくことは学校現場から求められている。

なお、これらは公益財団法人 JKA の競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	2025年										2026年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会開催	▼① 22	▼② 29		▼③ 17	▼④ 19		▼⑤ 20		▼⑥ 18			▼⑦ 22	
開催地公募	-▼												
テキスト改版	▲-----▼												
セミナー開催			▲-----▼										
学習教材開発		▲-----▼											
イベントでのセミナー実施					▼ 7			▼ 15				▼ 7	

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。今年度から、低年齢層化するインターネット利用に向けて小学校の分野に詳しい委員を1名増員した。全7回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	教員養成 DX 推進機構長・特命教授 藤村 裕一
元 東京女子体育大学	准教授 榎本 竜二
新見公立大学	特任教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
千葉学芸高等学校	総務部長 高橋 時生
柏市教育委員会	教育研究専門アドバイザー 西田 光昭

京都市立向島秀蓮小中学校	教諭	堀川 紘子
敬愛大学教育学部	教授	三宅 健次
川崎市教育委員会	指導主事	和田 俊雄
札幌保健医療大学	准教授	前多 香織

図表3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	調査研究開発部プロジェクト担当部長 乃一 志保	総括・研修対応・窓口
同上	調査研究開発部長 岩瀬 幹彦	総括・研修対応

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。多くの教材開発を行ったことで確認・調整事項が多く発生したことで、年間7回の委員会の開催となった。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	R7. 4.22	<ul style="list-style-type: none"> ・年度スケジュールの確認 ・セミナー開催地採択と担当委員の選定について ・情報モラルセミナーテキスト改訂について ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ6本） - ナビカード教材 - 図鑑型教材（高学年用） - 幼～小学校低学年向け絵本教材
第2回	R7. 5.29	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーについて 関西教育 ICT 展、JAET つくば大会、他セミナーについて ・情報モラルセミナーテキストの改訂について ・新規教材内容検討と作業分担 <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ6本） - ナビカード教材 - 図鑑型教材（高学年用） - 幼～小学校低学年向け絵本教材

第3回	R7. 7. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーについて 関西教育 ICT 展での役割シナリオの検討、他セミナーについて 秋田県開催セミナーの進捗について ・新規教材内容検討 <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 6 本） - ナビカード教材 - 図鑑型教材（高学年用） - 幼～小学校低学年向け絵本教材
第4回	R7. 8. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・2026 年度開発教材の検討 ・新規教材についてのプレスト
第5回	R7.10.20	<ul style="list-style-type: none"> ・JAET 全国大会・教育 DX 推進フォーラム情報モラルセミナーについて ・新規教材進捗確認とシナリオ討議 <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 6 本） - ナビカード教材 - 図鑑型教材（高学年用） - 幼～小学校低学年向け絵本教材
第6回	R7.12.18	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナー実施後のアンケート共有 ・教育 DX 推進フォーラム（3/7）での役割とシナリオについて ・新規教材進捗確認とシナリオ最終確認 <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 6 本） - ナビカード教材 - 図鑑型教材（高学年用） - 幼～小学校低学年向け絵本教材
第7回	R8. 3. 23	<ul style="list-style-type: none"> ・教育 DX フォーラム振り返り ・新規教材の校了 ・2026 年度情報モラルセミナーの実施スケジュールと講師割り振り ・情報モラルテキスト改版について

(4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり¹前年度の 1 月より行った。日本教育情報化振興会の Web ページで公開すると共に、全国の都道府県教育委員会、市町村教育委員会、教育センターへの当会の会報送付に下記の案内状を同封した。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

¹通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の 2 月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

2)開催時期と時間

令和7年6月から令和8年2月の間の午後、最低 2時間30分

3)対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度(目安)

4)開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

5)セミナーの具体的な内容

情報モラルセミナー委員会と貴教育委員会の協議で決定する

6)セミナーのプログラム(例)

- ・データから見るネット社会の現状
- ・情報モラルの指導(理論編および実践編)
- ・「ネット社会の歩き方」の活用
- ・その他の教材の紹介
- ・保護者との関わり
- ・問題発生時の対応
- ・ワークショップ

(5)セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。さらに、GIGAスクール構想により、1人1台のPC環境整備による情報モラルの重要性、並びに学習指導要領に沿った各教科での情報モラルに関する指導内容などを記載した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しいSNSのサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づき(過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む)資料の差し替えを行った。

教材の紹介ページも新規教材の紹介に入れ替えを行い、教員がそのまま授業で使用できるように掲載しているスライドシナリオの最新化も行った。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の教育委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

2025年度は、自治体で集合研修のセミナー開催に加えて、オンライン形式で開催も増えた。

図表5 セミナー開催実績

開催日	申請者	担当講師	参加人数
R7.6.3	佐賀県教育委員会事務局(オンライン)	西田委員	48
R7.6.12	堺市教育委員会事務局	榎本委員	16
R7.6.18	葛飾区教育委員会事務局	藤村委員長	42
R7.6.19	大東市教育委員会事務局(オンライン)	榎本委員	26
R7.6.23	飯南町教育委員会	藤村委員長	60
R7.7.3	越知町教育委員会	梶本委員	45
R7.7.23	守口市教育センター	西田委員	31
R7.7.29	成田市教育委員会(オンライン)	榎本委員	34
R7.7.30	近江八幡市教育委員会事務局	梶本委員	20
R7.8.4	呉市教育委員会(オンライン)	榎本委員	115
R7.8.6	志布志市教育委員会	高橋委員	31
R7.8.20	鹿児島市教育委員会	三宅委員	22
R7.8.22	羽曳野市教育委員会事務局	梶本委員	45
R7.10.10	鹿児島県総合教育センター	三宅委員	19
R7.10.28	武蔵野市教育委員会	西田委員	20
R7.11.18	岩見沢市教育委員会	藤村委員長	60
R7.8.6	秋田県共同開催	藤村委員長 榎本委員	68
R7.8.8	関西教育 ICT 展	藤村委員長 西田委員 高橋委員 堀川委員	67
R7.11.15	JAET つくば全国大会	藤村委員長 西田委員 榎本委員	37
R8.3.7	教育 DX フォーラム	藤村委員長 西田委員 榎本委員	74
		合計	880

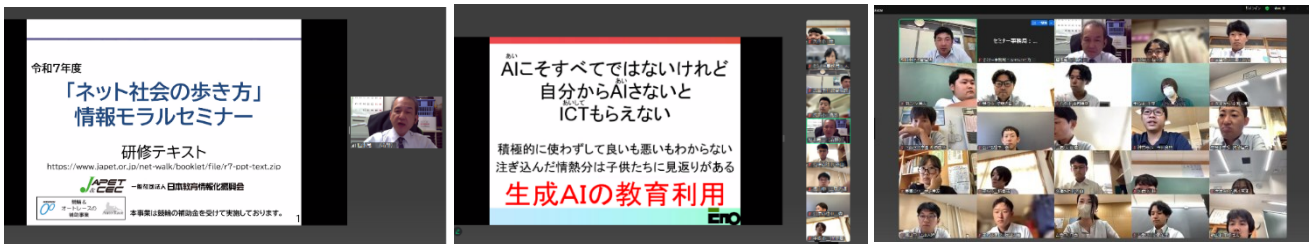
図表6 大阪府堺市教育委員会のセミナー風景（令和7年6月12日）



図表7 島根県飯南町教育委員会でのセミナー風景（令和7年6月23日）



図表8 成田市教育委員会オンラインセミナー風景（令和7年7月29日）



図表9 秋田県下合同開催のセミナー風景（令和7年8月5日）



図表10 武蔵野市教育委員会でのセミナー風景（令和7年10月28日）



(2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感は下記の通り

図表 1 1

開催場所	講師	所感
佐賀県教育委員会事務局	西田委員	<p>豊富な資料と西田先生の丁寧な説明により、講演を受けた本県の教職員にも理解しやすい講義であった。また、「情報モラルの指導で気になること」と題し、参加者の発表等を共有するサービスを活用しながら参加者からの意見を全体で共有することで、受講者の考えを視覚的に共有することができた。また後半のワークショップでは、Zoomの機能の一つであるホワイトボード機能を使って、校種別に分かれたグループごとに日本教育情報化振興会が用意している教材について、その具体的な活用方法等をグループ内で参加者同士の意見を共有した。今回参加した教職員の多くは、各学校において情報教育を推進するリーダー的な存在の者が多く、ワークショップ等においても積極的な意見が出ていた。</p> <p>ICTの積極的な利用と情報モラル教育や情報セキュリティ教育を両輪として進めることが重要であることは、生徒への指導に当たる教職員は十分に理解していると思われる。しかし、日ごろの校務に忙殺されることで、情報モラルやセキュリティに対する意識が薄れていることも考えられる。そのため、今回の研修をきっかけとして教職員自身の意識向上や、生徒への指導の必要性を再確認する良い機会になった。</p>
堺市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者はパワーポイントの資料に興味を持ち、熱心に学ばれていた。タブレットを用いたワークショップでは、他校の教員と協力しながら積極的に意見交換し、得るものが多かったようである。 ・参加者のアンケート結果はすべて「参考になった」であり、道徳や総合、学活等で、ネットの正しい使い方について啓発をしていきたいといった意見があった。また、本研修の動画を教材として各校で使用し、情報モラル教育に取り組んでいくといった感想が多数あった。
葛飾区教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近なテーマであり、保護者とともに考える必要性を感じた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育が重要である背景と具体的な授業ツールについて多くの情報を得ることができ、とても有意義だった。 ・デジタルシチズンシップ教育について、いろいろ疑問に思うことがあったが、とてもよく理解できた。よい教材を紹介いただいた。校内での進め方のイメージがわき、自分の考えを理解できた。
大東市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の冒頭に、本市からの質問に回答いただいた。「禁止する」だけではなく、教材等を活用しながら、「何が起こったのか」「どんなことに困っているのか」「どのように対応したらいいのか」をしっかりと考え、みんなで話し合っ、トラブルにあわない方法が大切であるということに参加者と共有することができた。 ・ワークショップでは、他校の先生方と選んだ教材やその理由を共有することができ、また各校のネットトラブルの事象、その対応等についても情報交換することができとても有意義な時間だったという参加者からの感想があった。
島根県飯南町教育委員会	藤村委員長	<p>講演では、スライド資料を中心にして、藤村先生より ICT・GIGA スクール構想の現状と課題、自律的な学びと情報モラル教育、生成 AI の活用、情報活用能力と論理的思考の育成などの話があった。また、実際に生成 AI を用いながらその活用法について学び、小グループでのコンセンサスゲームをとおして、多様な価値観にふれることや、合意形成を図ることの難しさ等を経験し、生徒への指導にどうつなげるかなどを話し合った。</p> <p>ICT 活用の理念や最新の動向等を知ることができ、これからの生徒への指導に生かすことができる等、多くの参加者から好評を得た。</p>
高知県越知町教育委員会	梶本委員	<p>近年急速に情報化社会が進み、教育現場でもタブレット端末を使用して活動する場面が当たり前になってきました。今後も ICT 活用を前提とした取り組みは更に進んでいくと考えられ、越知町としても教育DXの推進に力を入れていますが、同時に情報モラル教育の重要性も感じており、今回のような研修の機会を得られたことに感謝しております。</p> <p>研修内で情報モラルに関して多様な意見が出たように、現場の教職員としても、これまで教育現場で起きていたトラブルとの変容に戸惑いを感じている人は非常に多いです。こう</p>


		<p>した課題に対応していくためにも、定期的に情報モラル研修を重ね、教職員一人ひとりのスキルを向上させていくことが必須となっています。</p> <p>今後も外部の有識者をお招きし、教職員の学びの機会を絶やさず時代に合った教育を進めていくため、来年度以降も継続的に本事業を活用させていただければと願っています。</p>
大阪府守口市教育委員会	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの育成について、継続した指導（系統性）の深まりについて考える機会を、受講者へ提供することができた。本講座のワークショップで、各学年の発達段階に合った教材の整理を行ったので、今後は系統性を意識した教材を教育センターで整理し、各校へ広めていきたい。
滋賀県近江八幡市教育研究所	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に操作をしながら具体的な内容を教えてもらったのでよかった。 ・子どもたちの指導に必要な内容を短くわかりやすい動画で提供してもらえるので、ぜひ授業で活用したいと思った。 ・以前に情報教育に関する特別支援教育用の教材を探していた時に、子どもの実態に合うものがなくあきらめていました。今回教えていただいたものをアレンジして、教材づくりをしようと思いました。 ・生成A I もどんどん活用してみたいと思いました。資料をもう一度読み返して活用していきたいと思いました。
広島県呉市教育委員会	榎本委員	<p>今年度もオンライン研修で御講演いただきました。最新の情報やすぐに活用できるコンテンツの紹介だけでなく、「USB紛失事例」「アカウント乗っ取り」といった、現在の呉市の実態に即した内容で、大変有益な御講演をいただくことができました。グループ協議では、動画コンテンツを活用した授業の「まとめ」を考えるロールプレイングを通して、すぐにでも実践へ活かせる内容となりました。発表の場では、すべてのグループから発表できるようにファシリテートしていただき、すべての発表に対して榎本先生が御助言をくださったことで、研修をさらに深めることができました。</p> <p>参加者からは、「職員室は保護者・教材会社・配送会社等、色々な人が行き交うため、個人情報や机上に置かれていないか意識を高めていきたい。」「9月に行う道徳参観日で『ネット社会の歩き方』の教材を使用し、自らのタブ</p>

		<p>レット端末の使い方を見直し、課題を見つけ、改善するためのルールづくりを行いたい。」</p> <p>「国語の授業で作文やレポートを作成させる際に、『ネット社会の歩き方』を活用して指導していきたいと思った。情報の信頼性や引用の仕方、出典の示し方など、指導事項と関連する動画も掲載されていたため、補助教材として用いていきたい。」</p> <p>「グループワークで初任者の先生方と協議した際、様々な意見が出たのが生成AIについての話題でした。今後AIの技術を当たり前利用する社会に出ていく生徒に向けて、使用することへのリスクや法律などを教えていこうと思います。」等、今後に向けての意見が多数ありました。</p>
鹿児島県志布志市教育委員会	高橋委員	<p>資料を活用し、具体的な事例を交えながら分かりやすく説明していただいた。また、「ネット社会の歩き方」を活用した具体的な指導のあり方について考える時間があり、実際の授業場面を想定した活動を行うことができた。</p> <p>先生方からは、「ネット社会の歩き方」の有用性を実感するとともに、子供たちだけでなく、保護者対象の会でも活用したいとの感想があった。</p>
成田市教育委員会	榎本委員	<p>榎本先生による講演は、AI技術の現状と教育現場での利用の重要性をわかりやすく伝えてくださいました。「AIは万能ではない」「AIは文句を言わないご意見番」であるということ教師が理解し、AIを教育にどう利用していくのかを考え続けていくことが大事であることを改めて実感しました。</p> <p>また、情報モラルが単なる禁止教育に終わらず、公共ネットワーク社会の構築を目指すためには、「心」と「知恵」を磨き続ける重要性が強調され、具体的な指導法や教材を提示していただきました。</p> <p>多くの参加者がセミナーの内容と形式に満足し、有益な情報を得られたという声が多く聞かれました。特に、Zoomにてグループ協議を行うことができた点については、具体的な事例の共有や、同じ学校種だからこそその指導の悩みや子どもの実態を共有することができ、大変好評でした。</p>
鹿児島県鹿児島市教育委員会	三宅委員	<p>講演では現在、子供たちを取り巻く「ネット社会の現状」について、具体的な事例をもとに分かりやすく丁寧な講義をいただいた。参加</p>

		者は、各校種での課題や実践例を共有する場面が見られた。また、配布資料については、2学期からの校内研修や授業等で活用できるものばかりで、受講された先生方の情報モラル教育への意欲向上にもつながったと考えている。受講者がコンセンサスゲームによるワークショップに取り組むことで、2学期以降の授業での活用を具体的にイメージできたことから、大変有意義な研修となった。
東京都武蔵野市教育委員会	西田委員	参加者全員が、講習の内容を参考にできると回答している。具体的な教材を提示していただいたことで、校内で実践するイメージをもてたようだ。
岩見沢市教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のICTの活用状況について危機感を覚えた。 ・ICT機器をただ使用するのではなく、基礎事項を理解させた上で、学びを深めるために有効活用することの必要性を実感した。 ・GIGAスクール端末の持ち帰りに伴う活用方法の改善が必要だと感じた。 ・教師が知識・理解を深めた上で、児童・生徒とともにICT機器の活用について吟味し、研鑽を積み重ねることが重要だと改めて気づいた。

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

 <h2>令和7年度「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート</h2> <p>「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想をお聞かせください。</p> <p>一般社団法人 日本教育情報化振興会では、公益財団法人JKAの競輪の補助を受け、「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを開催しています。 本セミナーは児童生徒がネット社会を正しく歩んでいくため、指導を行っていただく際のノウハウを提供するものです。</p> <p>*必須の質問です</p> <p>セミナー受講日* 日付 年/月/日 <input type="text"/></p> <p>受講方法*</p> <p><input type="radio"/> セミナー会場での受講 <input type="radio"/> オンライン受講 <input type="radio"/> その他: _____</p> <p>あなたの性別は?*</p> <p><input type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女 <input type="radio"/> 回答しない</p>	<p>あなたの年齢は?*</p> <p><input type="radio"/> 20～29歳 <input type="radio"/> 30～39歳 <input type="radio"/> 40～49歳 <input type="radio"/> 50～59歳 <input type="radio"/> 60～69歳 <input type="radio"/> 70歳以上</p> <p>あなたの所属についてお伺いします。*</p> <p><input type="radio"/> 小学校 <input type="radio"/> 中学校 <input type="radio"/> 高等学校 <input type="radio"/> 特別支援学校 <input type="radio"/> 上記以外の学校 <input type="radio"/> 行政 <input type="radio"/> その他: _____</p> <p>あなたの職名についてお伺いします。*</p> <p><input type="radio"/> 校長 <input type="radio"/> 副校長 <input type="radio"/> 教頭 <input type="radio"/> 教諭 <input type="radio"/> 指導主事 <input type="radio"/> その他: _____</p> <p>あなたの分掌分野についてお伺いします。*</p> <p><input type="checkbox"/> 教科指導 <input type="checkbox"/> 生徒指導 <input type="checkbox"/> 教務 <input type="checkbox"/> 情報教育 <input type="checkbox"/> 研修 <input type="checkbox"/> その他: _____</p>
---	--

図表 1 2 受講者向けアンケート (Google フォーム) つづき

<p>これまで受講された研修について伺います。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。</p> <p><input type="radio"/> ある</p> <p><input type="radio"/> ない</p>	<p>開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
<p>これまでの情報モラル研修への関わり方について伺います。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。</p> <p><input type="radio"/> ある</p> <p><input type="radio"/> ない</p>	<p>今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
<p>受講動機について伺います。本セミナーへの受講動機として該当する項目を選んで下さい。</p> <p><input type="radio"/> 情報教育の担当をしているため</p> <p><input type="radio"/> 情報モラル指導のレベルアップのため</p> <p><input type="radio"/> 上司から受講の指示、勧めがあったため</p> <p><input type="radio"/> その他: _____</p>	<p>セミナーの教材について伺います。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に、今回紹介した教材が活用できると思うか、【活用度】をお答えください。</p> <p><input type="radio"/> 大変活用できる</p> <p><input type="radio"/> やや活用できる</p> <p><input type="radio"/> あまり活用できない</p> <p><input type="radio"/> 活用できない</p>
<p>セミナーの内容について伺います。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に、今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。</p> <p><input type="radio"/> 大変参考になる</p> <p><input type="radio"/> やや参考になる</p> <p><input type="radio"/> あまり参考にならない</p> <p><input type="radio"/> 参考にならない</p>	<p>今回ご紹介にした教材に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
<p>今回のセミナーで得られた情報の展開について伺います。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。</p> <p><input type="radio"/> セミナー、研修会などの開催する</p> <p><input type="radio"/> 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい</p> <p><input type="radio"/> セミナー、研修会など開催の予定はない</p> <p><input type="radio"/> その他: _____</p>	<p>今後増やして欲しい情報モラルの教材がありましたら、内容をご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
	<p>最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>

1) 受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 13 から 16 にまとめた。

① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別では、新任～ベテランまで網羅的に受講していることがわかる。

図表 1 2 性別年代別受講者数（単一選択）

		20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70歳以 上	
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
男	男性	61	83	61	59	20	1	285
		21%	29%	21%	21%	7%	0%	
女	女性	65	28	41	55	9	0	198
		33%	14%	21%	28%	5%	0%	
回答しない	無回答	1	2	2	1	0	0	6
	合計	127	113	104	115	29	1	489
		26%	23%	21%	24%	6%	0%	100%

② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数の比率（小学校：中学校：高等学校＝3：2：1）に応じた受講比率となっている。

図表 1 3 学校種別受講者数（単一選択）

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の学校	行政	その他	
216	164	66	14	3	19	7	489
44%	34%	13%	3%	1%	4%	1%	100%

③ 役職別受講者数

管理職の受講もあるが、通年では教諭が圧倒的に多い。その他は、行政職か ICT 支援員である。

図表 1 4 役職別受講者数（単一選択）

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	合計
25	14	9	373	9	59	489
5%	3%	2%	76%	2%	12%	100%

④ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、2020年4月から新学習指導要領の全面实施となったこととGIGAスクール構想のため、「生徒指導」担当の先生も一定数いる。また、その他が多いのは学校運営管理業務や行政職と予測される。※本回答は複数回答可の項目

図表 1 5 分掌分野別受講者数（複数選択）

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
165	93	93	143	75	113	682
24%	14%	14%	21%	11%	17%	100%

2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 17 から 19 にまとめた。

① 過去の受講経験

情報モラル研修に参加したことのある・なしは、ほぼ 1 : 1 である。

図表 1 6 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか（単一選択）

ある	ない	合計
242	247	489
49%	51%	100%

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 1 7 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか（単一選択）

ある	ない	合計
55	434	489
11%	89%	100%

② 本セミナーの受講動機

新任研修等悉皆研修にしている自治体も多いため「上司からの指示」の回答が見られるが、情報モラル指導のレベルアップの回答も多く、本セミナーの実施のねらいである、日々変化する社会情勢への対応という面では本セミナーの意義と一致すると考える。

図表 1 8 本セミナーの受講動機（単一選択）

情報教育の担当をしているため	138	28%
情報モラル指導のレベルアップのため	150	31%
上司から受講の指示、勧めがあったため	157	32%
その他	44	9%
回答数	489	100%

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 20 から 21 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

70% の受講者が“大変参考になる”と考えている。“やや参考になる”を含めれば 98% となる。

図表 1 9 本セミナーの有用度（単一選択）

参考にならない	あまり参考にならない	やや参考になる	大変参考になる		
1	2	3	4		
2	9	134	344		489
0%	2%	27%	70%		
		3or4 の回答比率			
				98%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

72% の受講者が“大変活用できる”と考えている。“やや活用できる”を含めれば 94% となる。

図表 2 0 本セミナー教材の有用度（単一選択）

活用できない	あまり活用できない	やや活用できる	大変活用できる	
1	2	3	4	
2	7	130	350	489
0%	1%	27%	72%	
		3or4 の回答比率		
		98%		

4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 1 今後のセミナー開催予定（単一選択）

セミナー、研修会などの開催する	50	10%
現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	205	42%
セミナー、研修会など開催の予定はない	217	44%
その他	17	3%
回答数	489	100%

図表 2 2 パネルディスカッションの様子（セミナー開始・登壇者全員）



図表 2 3 情報モラルに関する講義（藤村委員長）



図表 2 4 パネルディスカッションの様子—教材紹介（西田委員）



図表 2 5 パネルディスカッションの様子—グループワーク（榎本委員）



図表 2 6 ワークショップ・グループ発表



5. 今年度作成したコンテンツの概要

(1) 新規学習ユニット6 テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。問題提起～まとめまでが10分程度の短編のため45分・50分の授業でも活用しやすい教材となっており、GIGA 端末にもショートカットを入れている自治体も多い。本年は6コンテンツを新規開発した。

① ネットの規制は誰のため？

<校種> 中高

<教科>

学級活動・社会・公民

<学習内容>

未成年のネット利用に関する制限や規制の理由・目的を調べ、考えさせる。それを通して、ネット社会の一市民として自らの行動を律する考え方や態度を身に付ける。



② 電子マネーってなんだ？

<校種> 中高

<教科>

ホームルーム・社会・技術家庭・家庭・情報

<学習内容>

社会で広く利用されている電子マネーや電子決済の仕組みと、その違いについて学ぶ。



③ その写り込み、本当に大丈夫？

<校種> 小中高・保護者

<教科>

学級活動・特別活動・道徳科・総合・技術家庭

社会・すべての教科

<学習内容>

修学旅行で観光地を訪れる具体的な場面を題材に、映り込みが他者に及ぼす影響について考察し、肖像権に関する理解を深める。



④そのプログラム大丈夫？

<校種>小中高

<教科>

ホームルーム・総合・技術家庭・情報

<学習内容>

日常生活がプログラムに支えられていることを実感させ、作り手として求められる責任感と安全意識を育む。あわせて、設計や共有時の注意点を理解させる。



⑤端末を使いやすくしたかっただけなのに…

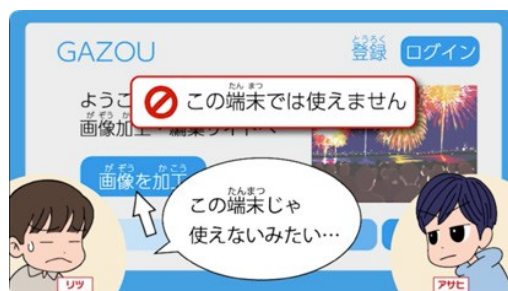
<校種>小

<教科>

すべての教科

<学習内容>

端末を安易に改造したり設定を変更したりすると、突然のトラブルに見舞われるだけでなく、メーカーのサポートを受けられなくなるおそれがあることを学ぶ。



⑥やってみよう！コンセンサスゲーム

<校種>小中高

<教科>

ホームルーム・道徳・特別活動・総合

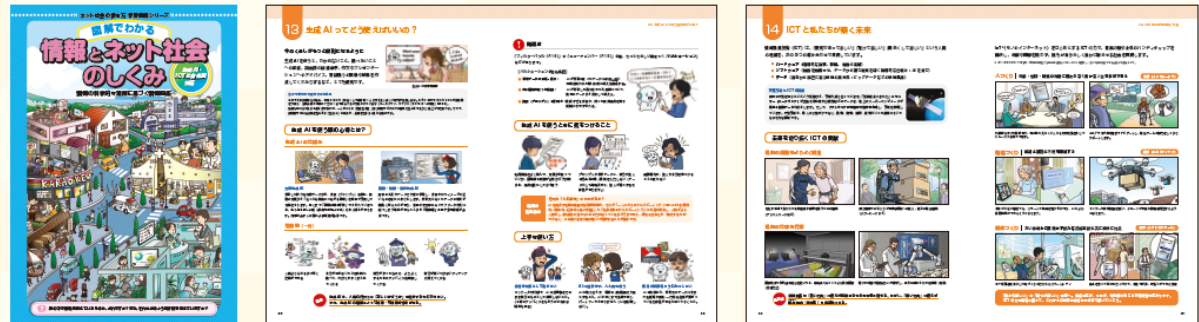
<学習内容>

同じ場面を見ても意見が分かれることを知り、話し合いを通して合意を形成する方法を体験しながら学ぶ。



●情報とネット社会のしくみ（生成AI・ICTの未来図対応） 令和8年3月発行版冊子教材

小学校高学年以上を対象とした図鑑型教材です。GIGA スクール構想に対応し、「情報」を科学的に解するとともに、ネット社会に対応する力を育てることを目的とし、令和8年版では生成AI の仕組みや活用のメリット、使用時の注意点を掲載。さらに、ICT を活用したさまざまな情報化社会の未来像も紹介。



●ナビカード教材 令和8年3月発行版

小学校低学年から中学生・高校生までを対象とした、カード型の情報モラル教材。

先生方や保護者の皆様から寄せられたニーズの高い課題を厳選し、授業や家庭で活用しやすい形にまとめた教材であり、身近なSNSトラブルやスマートフォンの使い方など、子どもたちを取り巻く現代的なテーマを扱い、考える・話し合う活動を通して、主体的に学べる構成になっている。

令和8年度は、新たに「押し活」「闇バイト」「幼年期のスマートフォン利用」「生成AI」の4テーマを追加。変化の激しいデジタル社会の中で、安全に、そして適切にICT を活用する力を育てる。

学校でも家庭でも活用できる、実践的な情報モラル教材。



6. まとめ

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。また、インターネットに触れる年齢が、低年齢層まで広がっている。生成AIの飛躍的な進歩や、インターネットを活用した犯罪など、日々児童・生徒を取り巻く環境が変化し続けている。誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化している。

2030年に予定されている次期学習指導要領改訂に向けても情報モラルを含む情報活用能力は身に着けていくべきスキルとして重要性が増している。

今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を教員が実施するために、資料の最新化を行い研修内容についてもブラッシュアップを行っている。

ここにおいて、公益財団法人JK Aの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。子ども達を情報から遠ざけるのではなく、正しく情報を知って、うまくつかっていくことを身に着けるデジタルシチズンシップの観点からも非常に大きな意義を持つと考えている。

学校・先生達に委ねるだけでは無く、保護者向けの情報発信も含めた本活動は他には例を見ない非常に有効な教材群となっている。

日本教育情報化振興会では、「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供にさらに力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（25ヶ所）と新しい問題や事件に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

- ① 動画ユニット教材新規開発（3本）
- ② 授業で使える情報モラルワークブック
- ③ 「ネット社会の歩き方」Web サイト刷新

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以 上

第2章

コミュニケーション力育成のための事業

1. 事業の目的

情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。

本委員会では、現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけた。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、「情報活用能力ベーシック」に適合するキーワードを抜き出し、整理したものである。この指導指標である「情報活用能力ベーシック」を学校現場で活用してもらい、普及することを本事業の目的とした。

2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標「情報活用能力ベーシック」を開発。「授業づくりに小学校版「情報活用能力ベーシック」を活用してみよう」というパンフレットでまとめた。

2021年度は、「情報活用能力ベーシック」を、小学校の教科における低中高別に整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめた「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」を製作。また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2022年度は、「情報活用能力ベーシック」を、中学校の教科において整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめた「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」を製作。また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2023年度は、情報活用能力ベーシックを活用した実践事例を、単元という形でまとめ、学校現場の先生方に、より授業の実践内容が伝わるように製作したものが、「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」である。

2024年度は、2023年度までに製作した以下の4種類の制作物を活用し、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施した。また、学校現場の先生方に「情報活用能力ベーシック」を活用してもらうために、校内研修における「情報活用能力ベーシック」を活用した内容を開発し、その紹介パンフレットを制作した。授業において活用されることを期待する。

1. 「授業づくりに小学校版「情報活用能力ベーシック」を活用してみよう」
2. 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」
3. 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」
4. 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

2025年度は、各教科と紐付けられた指導指標である「情報活用能力ベーシック」を活用した実践授業を動画コンテンツとしてまとめた。そして、「情報活用能力ベーシック」を活用した探究学習のサイクルを表した児童生徒向け教室掲示用ポスターを制作した。

本委員会は、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願う。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

2024									2025年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	▼①		▼②WG	▼③WG		▼④WG			▼⑤WG	▼⑥WG	▼⑦WG
	12		4	1		14			9	13	16
	▼①WG										
	'16										
				▼①			▼③	▼⑤	▼⑥		▼⑧
				7, 8			1	6	7		6, 7
				大阪			岡山	弟子屈	高知		東京
				9							
				▼②			▼④		▼⑦		
				北海道			15		24		
							茨城		沖縄		

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「情報活用能力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全1回の委員会と7回のWG会議を計画し、作業スケジュールの策定、情報活用能力に関する各施策の検討及び作成等、本事業の全体を管理した。また、情報活用能力育成に関する動画コンテンツやおパンフレットの制作実作業、セミナー開催準備等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学※	准教授 小林 祐紀 (委員長)
茨城大学※	教授 佐藤 幸江 (副委員長)
放送大学※	教授 中川 一史
東北学院大学文学部※	教授 稲垣 忠
熊本大学大学院教育学研究科	特任教授 前田 康裕
東京情報大学	講師 秋元 大輔

札幌国際大学	教授	岩崎 有朋
柏市立大津ヶ丘第一小学校	校長	佐和 伸明
浜松市立大瀬小学校 教諭	教諭	菊地 寛
桐蔭学園高等学校・中等教育学校	専任教諭	郡司 直孝
北海道教育大学附属函館中学校	教諭	有金 大輔
船橋市立若松小学校	教諭	渡辺 拓也
宮代町立須賀小学校	教諭	小内 慶太
金沢学院大学 教育学部※	講師	北濱 康裕

(注) ※：WG メンバー

図表3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	調査研究開発部 部長 岩瀬 幹彦	総括
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・全体 企画・運営・セ ミナー対応

(3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

図表4 委員会開催実績(全日程オンライン開催)

開催回数	開催日	議題
第1回	2025.5.2	(1) 2024年度活動の振り返り (2) 2025年度「情報活用能力育成調査研究事業」委員体制 (3) 「情報活用能力育成調査研究事業」活動案 (4) 各活動方針、活動内容、委員担当、スケジュールについて (5) 委員会、WG会議開催について
第1回WG	2025.5.16	(1) 校内研修パッケージ動画制作の検討
第2回WG	2025.7.4	(1) 校内研修パッケージ評価方法の検討
第3回WG	2025.8.1	(1) JKA2026年度予算申請に伴う事業の方針及び施策の検討
第4回WG	2025.10.14	(1) JKA2025年度調査研究である「小・中学校の学校現場における生成AIの教育利用実態把握」調査設計について

第5回 WG	2026. 1. 9	(1) J K A2025年度事業の制作物である「児童生徒向け教室掲示用ポスター制作」について
第6回 WG	2026. 2. 13	(1) 12月実施の「情報活用能力ベーシック」の5つの学習過程における生成AIの典型的な活用事例におけるアンケート結果のまとめ方検討
第7回 WG	2026. 3. 16	(1) J K A2026年度事業の施策検討

3. 「情報活用能力ベーシックを活用した探究学習のサイクルを表した児童生徒向け教室 掲示用ポスター制作」

「情報活用能力ベーシック」を普及するために、各地域の教育委員会とのタイアップセミナーや各ビッグイベント内でのワークショップを行ってきた。さらに、「情報活用能力ベーシック」の5つの学習プロセスを、こどもたちの探究学習のサイクルとして活用してもらうために、視覚的にわかりやすい子供向けの教室掲示用ポスターを製作した。

「情報活用能力ベーシック」を活用した探究学習のサイクルを表した児童生徒向け教室掲示用ポスター

(1) 目的

本ポスターは、小学生（中・高学年）および中学生が探究学習に主体的かつ継続的に取り組むことを支援することを目的として制作するものである。探究学習は「課題の設定」から「振り返り・改善」までの一連の学習過程を往還しながら深めていく学びである（情報活用能力ベーシックの知見）が、その過程を児童生徒自身が意識的に捉えることは容易ではない。

本ポスターでは、探究学習の5つの学習過程を簡潔な標語と具体的な行動例として可視化し、教室内に常時掲示することで、児童生徒が学習の見通しをもって活動できる環境を整えることができる。これにより、児童生徒の主体性の育成と探究的な学びの質の向上を図りたいと考える。

(2) 課題（現状とポスターの必要性）

現在の探究学習においては、児童生徒が活動の意味や位置づけを十分に理解しないまま作業的に、教師に指示されるがまま学習を進めてしまう場面が散見される。特に、課題設定の浅さや、情報収集・整理とまとめの混同、試行錯誤を伴わない表現、振り返りが形式的に終わってしまうことが課題として挙げられる。また、学年や教科によって指導の観点が異なり、児童生徒にとって探究の進め方が分かりにくいという状況もある。

児童生徒が自ら学習過程を確認し、本ポスターは、探究学習の共通フレームを教室内に明示することで、児童生徒が自ら学習過程を確認し、次に何をすべきかを判断できる手がかりを提供する役割を果たす。

(3) 具体的な活用シーン

本ポスターは、教室や少人数教室、特別教室等に常時掲示して活用することを想定している。総合的な学習（探究）の時間を中心に、各教科の探究学習の授業の導入では、現在の学習が探究のどの段階にあたるのかを確認するための指標として用いる。また、個別活動やグループ活動の途中において、児童生徒が行き詰まった際に自ら確認し、学習を立て直すための支援ツールとして活用する。

さらに、発表後や単元の終末では、振り返りの観点を共有する資料として用いることで、次の探究活動へと学びをつなげることが期待される。

(4) 配付について

全国の教育委員会 1,741 箇所、2026年4月に配付予定。

- ・都道府県教育委員会：47 力所
- ・市区町村教育委員会：1,694 力所
 - 市：792 力所
 - 町：743 力所
 - 村：159 力所
 - 特別区（東京 23 区）：23 力所

(5) ポスター

図表5 児童生徒向け教室掲示用ポスター

1 せってい
課題の設定
学びのスタート!なぜ?どうして?
解決すべき問いはなに?
・不思議に思うこと、もっと知りたいことを見つけよう
・みんなの意見を出し合い、問いを広げよう
・学習の目的や達成すべきゴールをはっきりさせよう

2 じょうほう しゅうしゅう
情報の収集
広く?浅く? せまく?深く?
目的に応じて正しく調べよう
・本やインターネットから資料を集めよう
・人に聞いたり、アンケートをとったりして情報を得よう
・情報の出どころや信頼性を確認しよう

3 ぶんせき
整理・分析
集めた情報を多様な
方法・視点から見つめ直そう
・集めた情報を表やグラフ化してみよう
・似ている情報をグループに分けて整理しよう
・事実と自分の考えを区別して考えよう

4 ひょうげん
まとめ・表現
相手や目的を考えて
アウトプットしよう
・発表のしかた(文章・図・プレゼン)を工夫しよう
・聞き手がわかりやすいように順序を考えよう
・大事なことが伝わるように表現を選ぼう

5 かいはん
振り返り・改善
自分の学びをふり返って、
次の一歩につなげよう
・できたこと・できなかったことを振り返ろう
・友達や先生からのアドバイスを思い出してみよう
・次にもっとよく学ぶための工夫を考えよう

学ぶチカラは、くり返すほど、強くなる。

日本教育情報化振興会
「情報活用能力育成調査研究委員会」
(委員長 筑波大学 小林祐記)
<https://www.jupet.or.jp/>

情報活用能力
本ポスターは、当委員会開発の「情報活用能力ベーシック」に準拠し、
児童生徒の学習活用を目的として作成されたものです。

4. 「情報活用能力ベーシック」を活用した実践授業動画コンテンツの制作

2020年度に開発した、学習プロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標である「情報活用能力5力ベーシック」を活用した実践授業動画コンテンツを制作した。

実際に情報活用能力を育成するための授業の流れをみていただき、授業力向上につなげていただきたい。

(1) 小学校

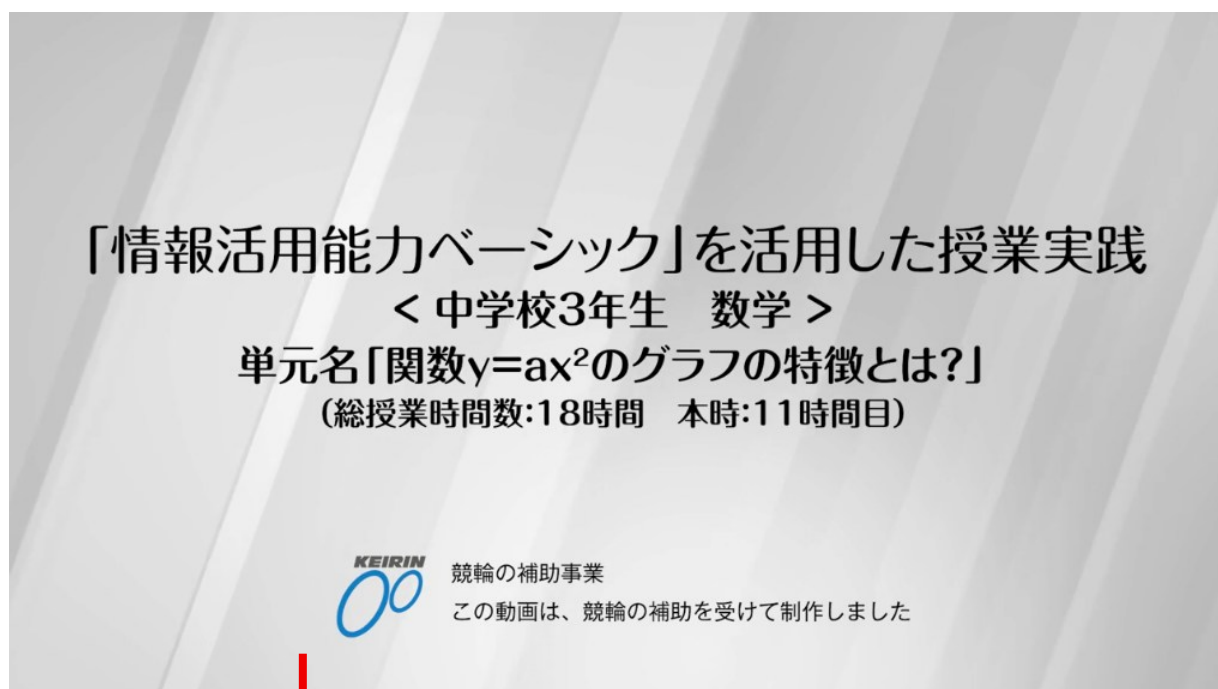
- ① 学年：5年生
- ② 教科：国語
- ③ 単元：クラスの生活をよりよくするための提案をしよう！
- ④ 授業時間：本時は9時間中5時間目
- ⑤ 動画コンテンツ
 - ・ 授業者による授業概要紹介
 - ・ 実践授業 約10分のショートバージョン動画
約20分のロングバージョン動画
 - ・ 授業指導者と授業者へのインタビュー

(2) 中学校

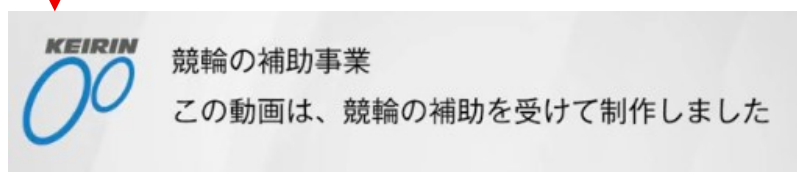
- ① 学年：3年生
- ② 教科：数学
- ③ 単元：「関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴とは？」 (3) 授業時間：本時は5/9時間目
- ④ 授業時間：本時は18時間中11時間目
- ⑤ 動画コンテンツ
 - ・ 授業者による授業概要紹介
 - ・ 実践授業 約10分のショートバージョン動画
約20分のロングバージョン動画
 - ・ 授業指導者と授業者へのインタビュー

(3) 動画コンテンツ

① 中学校動画



図表6 オープニング画面



図表7 JKAの競輪マーク表示



図表8 本日取り組む課題について説明

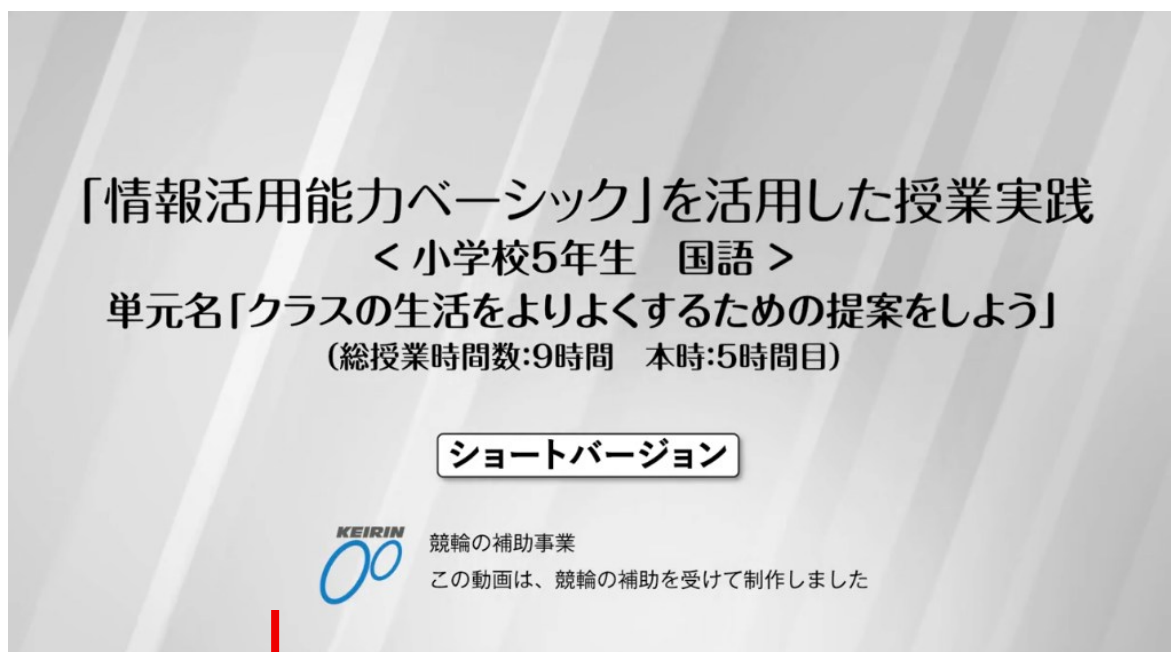


図表9 生徒が協働で授業に取り込む様子
随時わかりやすいように、解説コメントを入れている

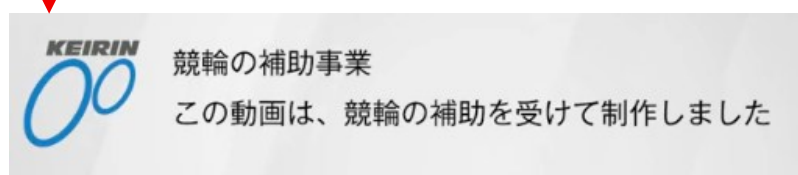


図表10 授業指導者と授業者とのインタビュー

②小学校動画



図表 1 1 オープニング画面



図表 1 2 J K A の競輪マーク表示



図表 1 3 本日取り組む課題について説明



児図表 1 4 童が協働で授業に取り込む様子
 随時わかりやすいように、解説コメントを入れている



図表 1 5 授業指導者と授業者とのインタビュー

5. セミナー開催

(1) 概要及びスケジュール

2025年度は、昨年度までに開発した以下の5つのパンフレットを活用して実践した模擬授業を、ビッグイベントの中で3か所にて実施する事ができ、単独セミナー2回、教育委員会とのタイアップ2回を開催できた。

- ① 「情報活用能力ベーシック（小学校）」
- ② 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」
- ③ 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」
- ④ 「情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」。
- ⑤ 「情報活用能力ベーシックを活用！情報活用能力を育む授業づくりを実現する校内研修パッケージ」

図表16 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	2025.8.7	大阪府大阪市／第10回関西教育ICT展・インテックス大阪二号館 小学校模擬授業	佐藤委員 秋元委員 渡辺委員	45名 (定員40名)
第2回	2025.8.8	大阪府大阪市／第9回関西教育ICT展・インテックス大阪二号館 中学校模擬授業	佐和委員 菊地委員 有金委員	34名 (定員40名)
第3回	2025.8.9	北海道札幌市／教育フェスティバル in 札幌国際大学	佐藤委員 前田員	20名 (定員30名)
第4回	2025.11.1	岡山県岡山市／ライズオカヤマ主催第9回教育セミナー in オカヤマ／岡山コンベンションセンター（コンベンションホール3F）	秋元委員 北濱委員 小内委員	45名 (定員60名)
第5回	2025.11.15	茨城県つくば市／JAET 茨城つくば大会 つくば国際会議場	岩崎委員 稲垣委員 北濱委員	32名 (定員40名)
第6回	2025.12.6	北海道弟子屈町教育委員会とのタイアップセミナー／釧路圏摩周観光文化センター	小林委員長 稲垣委員 佐和委員	29名 (定員60名)

			岩崎委員 菊地委員 有金委員 郡司委員 渡辺委員	
第7回	2026.1.7	高知県香美市教育委員会とのタイアップセミナー／香美市立保健福祉センター香北	小林委員長 中川委員 佐藤委員 前田委員 秋元委員 郡司委員 小内委員	98名 (定員 100名)
第8回	2026.1.24	沖縄県那覇市／第30回沖縄県マルチメディア教育実践研究大会 那覇市立松島小学校	佐藤委員 佐和委員	20名 (定員30名)
第9回	2026.3.6	教育DX推進フォーラム／ 中学校模擬授業 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟	岩崎委員 佐和委員 郡司委員	39名
第10回	2026.3.7	教育DX推進フォーラムパネルディスカッション 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟	小林委員長 中川委員 佐藤委員 前田委員	200名
合計				562名 (前年 499名)

(2) 概要

セミナーの開催地は委員会で検討、決定した。

1) テーマ

「情報活用能力を育む授業づくり」

2) 内容

◆ビッグイベント

小学校模擬授業 または 中学校模擬授業 または 校内研修パッケージの紹介

◆教育委員会タイアップセミナー

基調講演

小学校模擬授業

中学校模擬授業

総括パネルディスカッション

3)対象受講者

教育委員会、教職員等学校関係者

4)基調講演

北海道弟子屈町

- ① 「今、強く育成が求められる情報活用能力 –デジタル学習基盤を活用した授業づくりの実現に向けて–」

放送大学 教養学部 准教授 小林 祐紀 氏

高知県香美市

- ② 「デジタル学習基盤を視野に入れた情報活用能力の育成」

放送大学 教授 中川 一史 氏

5)模擬授業

北海道弟子屈町

- ①小学校：《情報活用能力を育む授業づくり 模擬授業

小学校家庭科「こんだてを工夫して」魅力的なゴールのための情報収集と整理・分析》

模擬授業者：千葉県船橋市立若松小学校 教諭 渡辺 拓也 委員

- ②中学校：《情報活用能力を育む授業づくり 模擬授業

中学校社会科・公民的分野「財政」 社会的事象に見られる問題から課題を設定する》

模擬授業者：学校法人桐蔭学園中等教育学校 専任教諭 郡司 直孝委員

高知県香美市

- ③小学校：《情報活用能力を育む授業づくり 模擬授業

小学校5年国語 「自然環境を守るために」 ～収集した情報から自分の考えが伝わるように、構成メモに整理しよう～》

模擬授業者：埼玉県南埼玉郡宮代町立須賀小学校 教諭 小内 慶太委員

④中学校：《情報活用能力を育む授業づくり 模擬授業

中学校社会科・公民的分野「財政」社会的事象に見られる問題から課題を設定する》

模擬授業者：学校法人桐蔭学園中等教育学校 専任教諭 郡司 直孝委員

6) 開催の様子



Microsoft Search (Alt+Q)
ここにカーソルを置くと検索結果が表示されます。ヘルプを利用できます。
詳細情報

第10回関西教育ICT展
情報活用能力育成セ
～模擬授業実践から～

KEIRIN.JP
競輪オフィシャルウェブサイト

JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

一般社団法人日本教育情報化振興会

図表10 第9回関西教育ICT展内セミナー（インテックス大阪）の様子（令和7年8月7日）



図表 1 1 関西教育 ICT 展内セミナーの様子 (令和 7 年 8 月 7、8 日)



図表 1 2 教育フェスティバル in 札幌国際大学内ワークショップ (札幌国際大学)



図表 1 3 第 9 回教育セミナー in 岡山とのタイアップセミナー (岡山コンベンションセンター) の様子



図表 1 4 JAET 茨城つくば大会内でのワークショップ (つくば国際会議場)



図表 1 5 北海道弟子屈町教育委員会とのタイアップセミナーの様子



図表 1 6 高知県香美市教育委員会とのタイアップセミナーの様子



図表 1 7 第 30 回沖縄県マルチメディア教育実践研究会とのタイアップセミナー



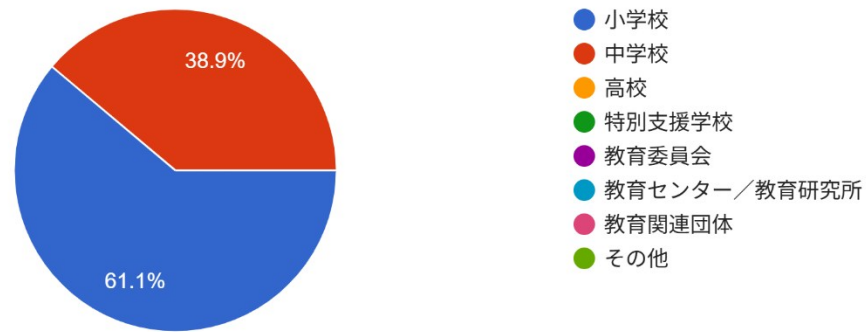
図表 1 8 教育 DX 推進フォーラム内セミナーの様子

(3) アンケート結果

1) 情報活用能力育成セミナーin 北海道弟子屈町 回答：18件／参加29名中、62%回答率

質問2 ご職業分類を教えてください

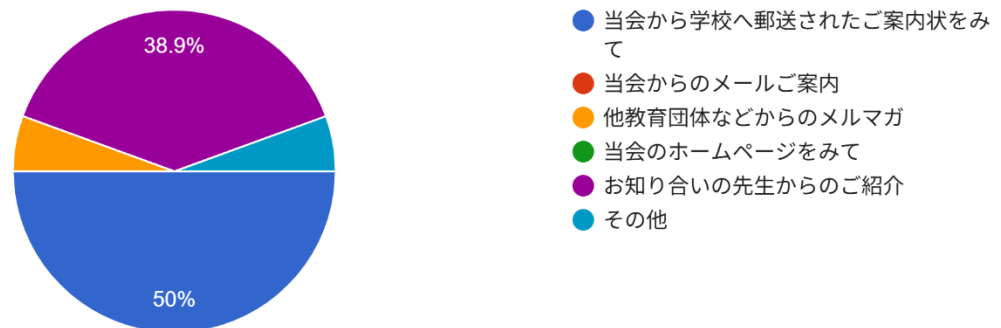
18件の回答



図表19 質問2の回答結果

質問3 本セミナーは、何でお知りになりましたか。

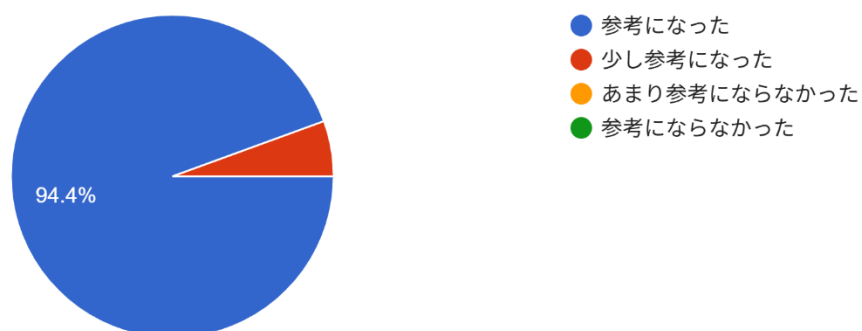
18件の回答



図表20 質問3の回答結果

質問4 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

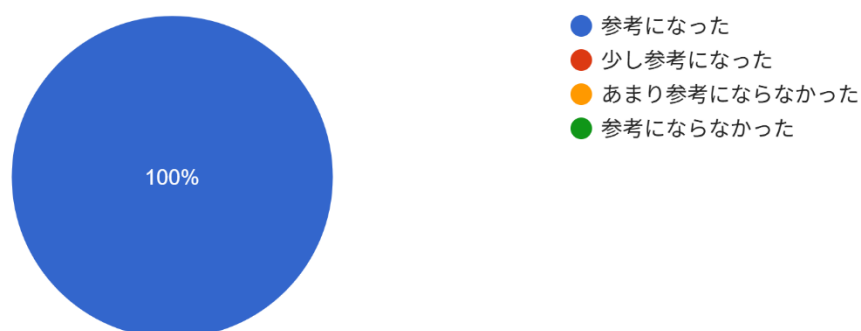
18件の回答



図表2-1 質問4の回答結果

質問5【基調講演】「今、強く育成が求められる情...授 小林 祐紀 氏 の内容は、いかがでしたか。

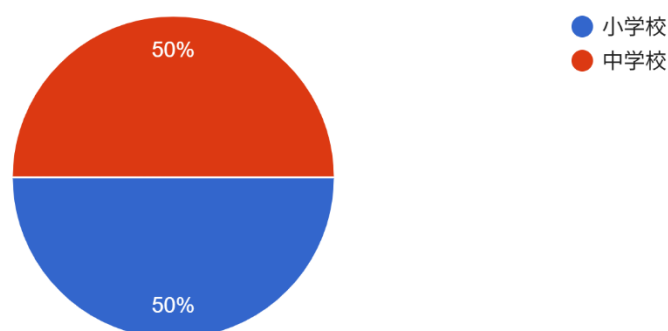
18件の回答



図表2-2 質問5の回答結果

質問6 参加された模擬授業はどちらですか

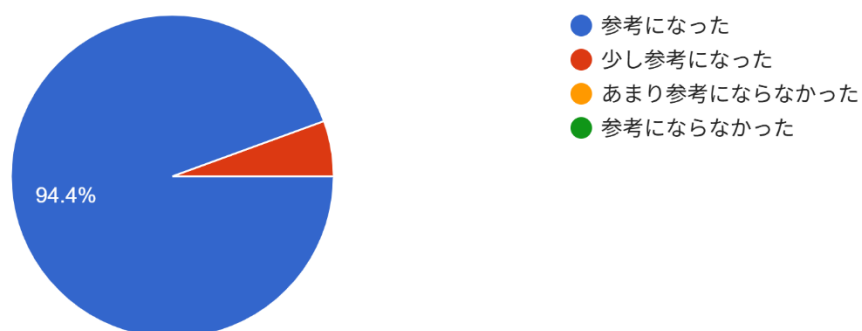
18件の回答



図表2-3 質問6の回答結果

質問7 参加された模擬授業の内容は、いかがでしたか。

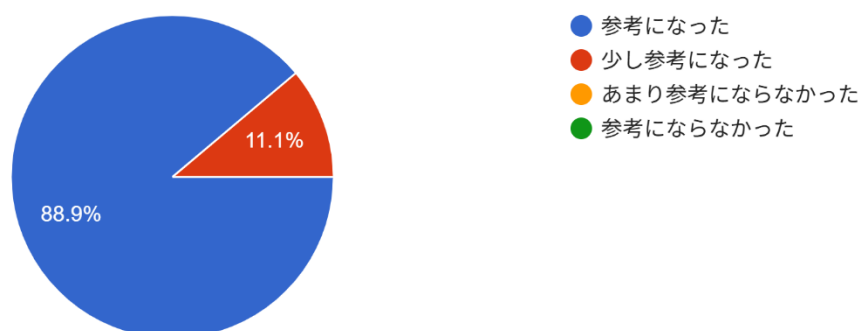
18件の回答



図表24 質問7の回答結果

質問8 総括パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

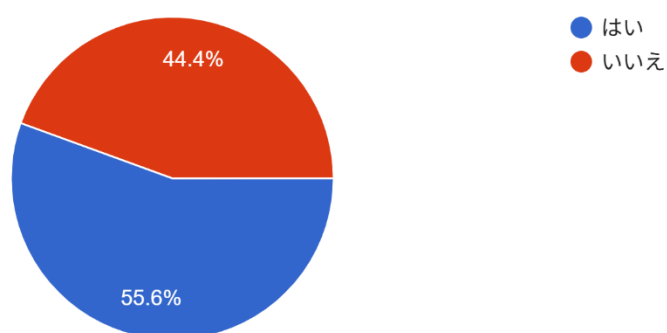
18件の回答



図表25 質問8の回答結果

質問9 当会では、「先生と教育委員会向けのメル...」をご案内しています。受信をご希望されますか。

18件の回答



図表26 質問9の回答結果

質問10 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

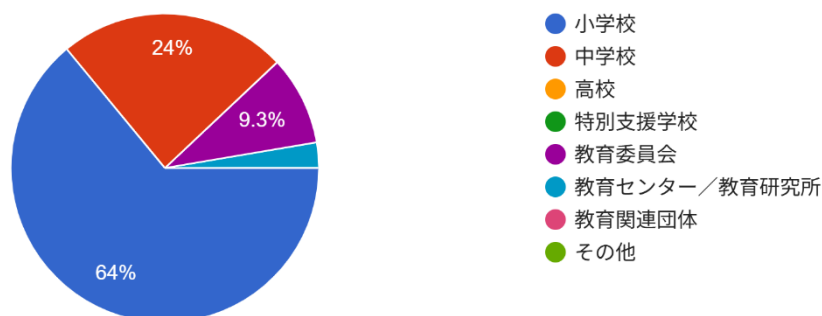
5件の回答

- ①遅れての参加でした。最初から聞きたかったです。ありがとうございました。
- ②とても勉強になりました。論点整理にもふれられて、情報活用能力の必要性やこれからの学びのスタイルがイメージしやすく、とてもわかりやすかった。
- ③今回、このような機会をつくっていただき、大変勉強になりました。自校に戻ったら、自分が発信して、情報活用能力育成のための5つのサイクルを意識しながら授業作りをしていきたいと思えます。本当にありがとうございました
- ④貴重な機会をありがとうございました。市のICTの手引きなどに反映させていきたいと考えています。
- ⑤小林教授のご講演のみ参加させていただきました。ありがとうございました。

2) 情報活用能力育成セミナーin高知・香美市 回答：75件/参加98名中、76.5%回答率

質問2 ご職業分類を教えてください

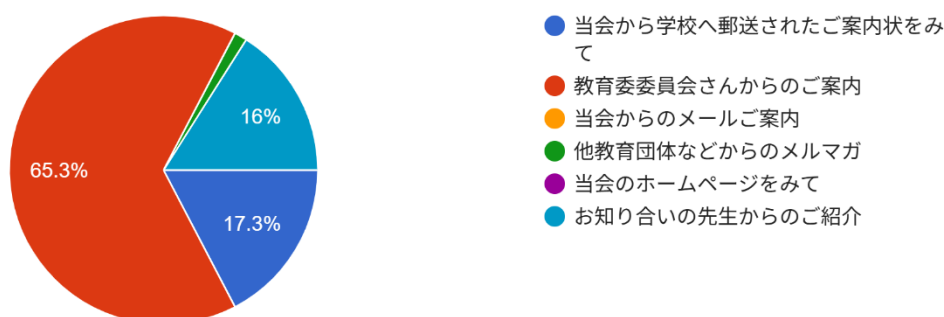
75件の回答



図表27 質問2の回答結果

質問3 本セミナーは、何でお知りになりましたか。

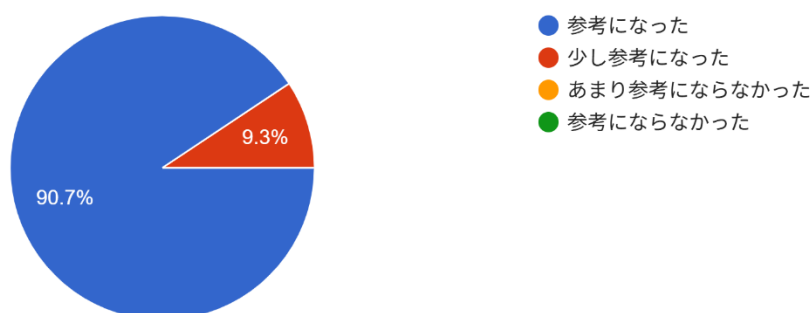
75件の回答



図表28 質問3の回答結果

質問4 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

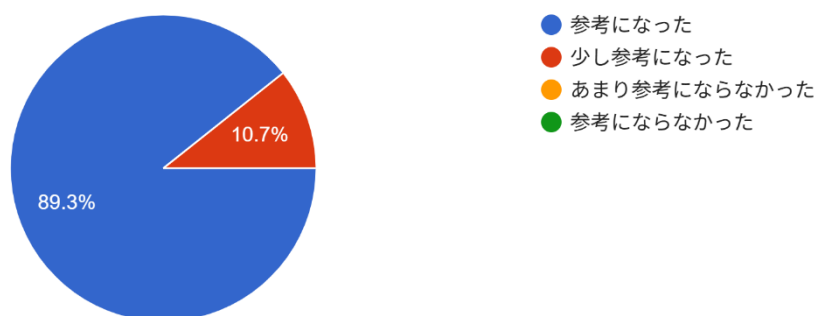
75件の回答



図表29 質問4の回答結果

質問5【基調講演】 「デジタル学習基盤を視野に...授 中川 一史氏」の内容は、いかがでしたか。

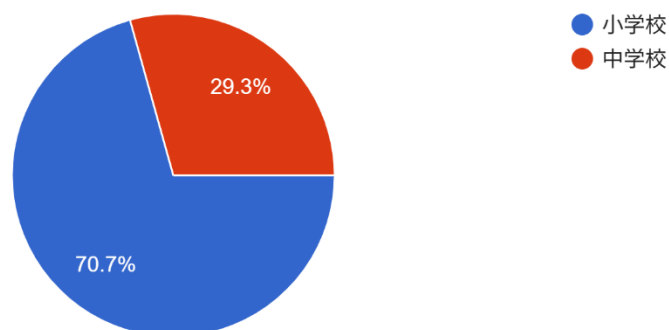
75件の回答



図表30 質問5の回答結果

質問6 参加された模擬授業はどちらですか

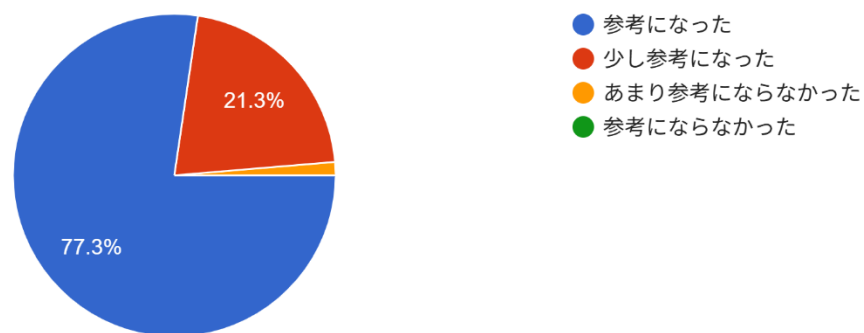
75件の回答



図表31 質問6の回答結果

質問7 参加された模擬授業の内容は、いかがでしたか。

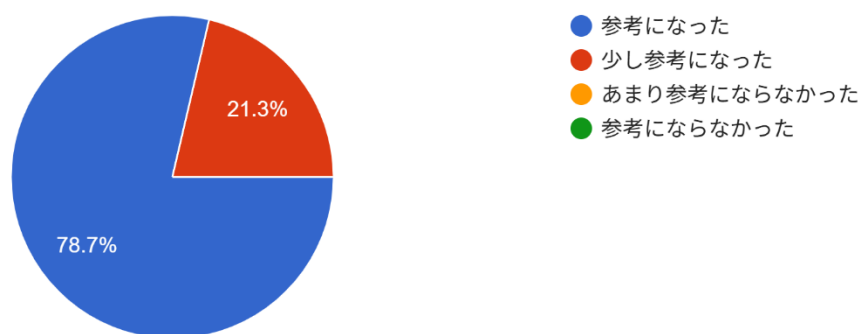
75件の回答



図表32 質問7の回答結果

質問8 総括パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

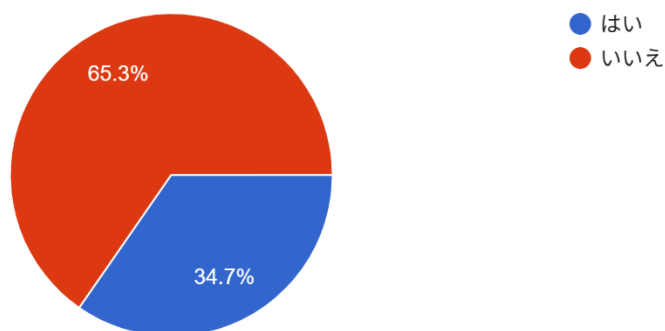
75件の回答



図表33 質問8の回答結果

質問9 当会では、「先生と教育委員会向けのメル...」をご案内しています。受信をご希望されますか。

75件の回答



図表34 質問9の回答結果

質問10 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

①とても勉強になりました。ありがとうございました。

②ありがとうございました。大変勉強になりました。

6. まとめ

本委員会では、学校現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発し、その指導指標を学校現場で活用してもらい、普及することを本事業の目的とした。

2025年度は、2020年度に開発した授業の構想及び実践に資することを意図し、学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」を活用した児童生徒向けの教室掲示用ポスターを制作した

また「情報活用能力ベーシック」を活用した実践授業動画を昨年度に引き続き、授業者を変えて制作し、動画の種類を広げることができた。

模擬授業については、この情報活用能力ベーシックを活用した学習指導案を作成し、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできるものとして、2025年度も開発した。今年度も、3つのビッグイベントの中で模擬授業を行うことができた。

また、当会や関連団体が開催するセミナーとタイアップして、模擬授業を行うことができた。

教育委員会とのタイアップセミナーは、単独セミナーとして東日本1地域と西日本各1地域ずつで開催することができた。市の教育委員会と開催することができ、多数の学校関係者に参加いただいた。

これまでに4つのガイドブックや事例集等を製作し、それをセミナー内で活用し、広くPR出来たことが大きな成果となった。

- (1) 「情報活用能力ベーシック」パンフレット
- (2) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」
- (3) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック 中学校編」
- (4) 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

2026年度は、GIGA スクール構想の第2 ステージにおいて、「情報活用能力の育成」は重要テーマの一つである。本事業では、探究的な学びの基盤としての情報活用能力を育成するための指導力の向上を目指し、事業を推進していきたい。

本事業で開発した「情報活用能力ベーシック」を全国の学校関係者に啓蒙していくために、地域密着型の施策としては、様々な地域やイベントで4つのガイドブックや事例集を活用した模擬

授業を実施していき、さらに学校現場をサポートする校内研修パッケージを活用されることを期待している。

また、全国の教育関係者に広まる施策としては、実践授業の動画コンテンツをまた制作し、インターネットから動画が視聴できるようにしていきたい。

教育委員会にとっても、この4つのツールと校内研修パッケージは、学校指導に有効活用できるものであり、教育関係者に役立つものと考えている。今後はweb等で広く啓蒙していく予定である。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の日本教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやまない。

以 上

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング1階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

発行日：2026年3月31日

禁無断転載

JAPET
& CEC